



定期学校訪問シリーズ22～青山小 下堅田小～

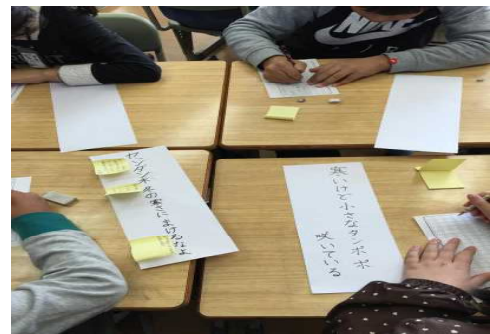
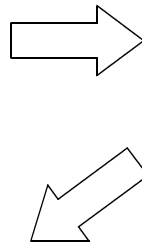
振り返りで主体的な学びをつくる

児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりにおいて、「見通し」と「振り返り」は重要な学習活動です。振り返りの際は、単にがんばったことや本時の感想を書かせるのではなく、めあてに即して、その達成状況等について振り返りをさせる必要があります。新しく学んだことや気付いたこと、次の時間に取り組んでみたいこと等の視点を設定し、児童生徒が自分の言葉で学んだことを活用して書かせる場を保障することが大切です。

青山小、下堅田小ともに、振り返りを一人ひとりに書かせるようにしていました。下堅田小第5学年の振り返りでは、教室に児童の鉛筆を動かさず音だけが響いていました。

【下堅田小の取組】

- (1) **めあての提示**
見通しを持たせるために具体的な学習活動を示しためあてを提示する。
- (2) **めあてにそったペア・グループ活動**
めあてにそってペア・グループ活動を行う。付箋を使用して気付いたことを交流していました。



(3) **条件を付けて読み書きする指導**



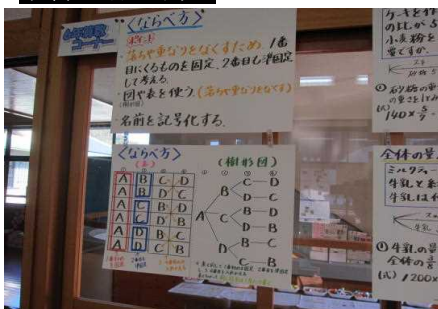
平成27年度「今後の学力向上に関する取組の徹底」に示されている「条件を付けて読み書きする指導の徹底」の取組が顕著に見られました。

また、日常に定着するために互見授業等の視点にもなっていました。

- 振り返りのポイント①視点を与える②キーワードを与える
- ③字数制限を行う④時間制限をする⑤段落がえや行がえを指示する等があります

【青山小の取組】

学習内容の掲示



学習した用語を「振り返り」に活用できるように、学年の実態に即して、ポイントをまとめて掲示していました。

児童が、学習した内容をすぐに振り返るのに有効なツールと言えます。

